

2019年度「学会論文賞」授賞の報告

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るため、2009年に「学会論文賞」が設立されました。

この賞は、医療経済学会雑誌である「医療経済研究」に掲載された研究論文の中から与えられるものであり、賞状のほか副賞として賞金（提供：医療経済研究機構）が贈られます。

2019年度は学会論文賞については、2020年9月5日開催された医療経済学会 総会にて、以下の通り報告されました。

「所得が高齢者の医療・介護費に与える影響」

今堀まゆみ 先生（早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程）
栗原 崇 先生（同大学政治経済学術院 助教）
野口晴子 先生（同大学政治経済学術院 教授）

授賞理由：

本論文は、ある自治体の国民健康保険レセプトと介護保険レセプトデータを用いて、所得水準が医療・介護の合計費用に与える影響を検証し、公的医療・介護保険が所得による医療・介護費の格差を緩和する可能性について論じたものである。本テーマは医療経済学における重要テーマに関わらず、本邦での研究は乏しく、特にマイクロデータを使った研究はこれまでほとんどなかった。医療と介護のレセプトデータを個人レベルで連結し、なおかつ所得データも個人レベルで突合しており、これまでの研究の限界を克服した貴重なデータである。手堅い分析手法を用いて興味深い結果とそれに基づく妥当な考察を展開している点も高く評価され、編集委員会一致で推薦となった。

医療経済学会では、医療経済・医療政策研究の発展を図るべく2009年に学会論文賞が設立されました。また2012年からは、特に若手研究者の研究奨励を図るべく、新進気鋭の若手による論文を受賞対象として選ぶようにしています。このたびの選考でも、論文の質はもとより、若手研究者の意欲的な取り組みが高く評価されています。次年度以降も若手諸氏の意欲的投稿を期待します。

『医療経済研究』編集委員長 橋本 英樹